

に返る約7.5キロ。には「手頃な距離歩けた」「普段歩めつて、思わぬ発（なん）話」てい

（磯田正重）



行田市の住宅メーカー「フアイブズホーム」は、市内の小中学校にサッカーボールとバスケットボールを28個ずつ、計56個を寄付した。11日、同市本丸の市産業文化会館で寄贈式を実施。市教育委員会が、感謝状を贈った。

発行手数料から20万円を充当。同社はさらに20万円を拠出し、計40万円相当のボールを寄付することになった。

寄贈式で、同社の細井保雄社長は「小中学生が立派に成長し、社会に役立っていただければとの思いで寄付した」

ボールを寄付したフアイブズホームの細井保雄社長（中央）と仲介した埼玉のそな銀行行田支店の鈴木啓太支店長（左）、寄贈を受けた行田市教育委員会の渡辺充教育長（11日、行田市本丸の市産業文化会館）

「秩父陸橋」解体工事進む

住宅街で騒音に配慮

県秩父県土整備事務所が昨年5月から開始した、秩父市内の国道140号線上「秩父陸橋」平面化工事は着々と進んでいる。10日現在、橋梁きょうりょうの間に間をつないでいたコンクリート擁壁の取り壊し作業が9割ほど完了した。

擁壁撤去は今年内に終了予定で、その後は橋梁の撤去、周辺の無電柱化事業、道路・交差点整備と作業を進める。

開通は2027年度末の見通し。同陸橋の工事関係者は「安全最優先で作業員のけがはなく、近隣住民の騒音に関する苦情も寄せられていない。作業は順調」と話す。

熊谷市方面から山梨県方面へ延びる同陸橋の平面化工事は、陸橋の老朽化対策や防災

上の安全性と景観の向上、地域の経済発展などが目的。工事期間中は片道約950メートルの迂回（うかい）路コースが国道140号に指定されている。

擁壁の撤去作業は昨年10月末から開始。橋長31・8メートル、高さ6・4メートルの橋梁部から延びる勾配（熊谷市側17度、山梨県側11度）の道路擁壁を、重機を使って破碎していく。熊谷市側を守屋八潮建設（同市宮側町）が、山梨県側を秩父土建（同市大野原）が担当。午前8時半から夕方までの時間帯に、各10人態勢で工事を進めている。



クラッシャーなどを用いて、低騒音で擁壁撤去を進める工事関係者（10日正午ごろ、秩父市）

市内で最も交通量が多い同線路上は、商業施設や住宅が立ち並んでいるため、今回の工事は低騒音・低振動を重視した「CRC解体工法」が用いられている。工程に合わせて、油圧せん孔機（コアマン）、油圧割開機（リキヤ）、大割機（クラッシャー）を50トンの大型重機に装着し、計約300立方メートルのコンクリートに静かに穴を空け、開き割の圧砕していく。撤去費計約5億円のうち、6割が同作業に活用されている。（中野春夫）

作成された「狭山丘陵で出会う絵本」のパンフレット＝11日、所沢市久米

然を絵本 作成され、今回で第2弾になる。ト「狭山 1951（昭和26）年に県立狭山自然公園が制定された記念日の3月9日に合わせ、千部を作成した。狭山丘陵の風景写真から連想した絵本8冊を同館の司書が選定し、紹介。所沢、入間市から東京都にまたがる狭山丘陵の概要について詳しく解説する。

A6版で、開くとA3版になる。同センターの須賀聡さんは「絵本から狭山丘陵の良さを知ってもらいたい。里山の景観を楽しんでもらって、緑が未来に続いていけば」と期待した。

問い合わせは同センター（☎04・29339・9412）へ。

（坂口菜摘）

128213
9161
0401

県北 熊谷市宮町2-1122 第一宮町ビル2F
支社 TEL 048・5221・0819
FAX 048・5221・1540

メールは全て dokusya@saitama-np.co.jp

広告の運用 TEL 048・795・9932

埼玉新聞社の本



※カバイメージ

「桃太郎侍」を書いた男

やま て き いちろう どう じ だい

年頭恒例 第8回埼玉・群 囲碁交流対抗戦が 熊谷市中央公民館 だ。双方33人から 学生を対象とした。内訳はノーハ 戦の部が4人すつ